

◇ 太陽光発電の普及 ◇

日本国内の住宅における太陽光発電搭載率は、全国平均で6.6%（総務省平成26年全国消費実態調査より）ですが、この普及には太陽光発電の「固定価格買取制度」が大きく関係したと言われております。

政府は、2020年までにハウスメーカー等の建築する注文戸建住宅の過半数で太陽光発電を搭載したネット・ゼロ・エネルギー・ハウス（ZEH）を実現する事」を目標として掲げているため、さらに太陽光発電は普及していくものと思われま

◇ 2019年問題 ◇

このように時代背景は、普及の一途をたどる太陽光発電ですが一方で大きな課題を抱えております。

「固定価格買取制度」とは、電力会社が決められた期間（10年または20年）に決められた金額で、太陽光発電した電力（全量または余剰電力）を買い取る制度です。この制度が住宅用太陽光発電分野で余剰電力買取制度として導入されたのが2009年です。

つまり、この当時買取制度を導入したご家庭は、早ければ2019年に買取制度の期間終了を迎えます。

買い取り期間が終了すると、電力会社は決められた金額で買い取る義務がありませんので、契約期間の金額よりも安い価格での買い取り、あるいは買い取り自体を行わないという可能性もあります。これが「2019年問題」として、一昨年あたりから大きくクローズアップされております。また、固定価格買取制度の買い取り価格が年々減少傾向にある事も見逃せません。

現在の買い取り価格は、33円/kWh（10KW未満・10年・出力制御対応機器設置ありの場合）で、これは5年前と比べて20%ダウンの価格です。

この買い取り価格であれば、電力料金メニューの一部時間帯では電力会社に買い取ってもらうよりも、自家消費した方がお得であるというのが現実です。

このように電力会社に買い取ってもらうよりも、自家消費した方がお得という電力消費の損益分岐点とも言える境目を「グリットパリティ」と言います。

現在は電力料金メニューの一部時間帯だけにとどまっている現象ですが、近いうちに全ての時間帯を通じて「売電価格<買電価格」を迎える時がやってくるでしょう。ファース本部ではその対応策の研究も行っております。

◇ これからの時代は・・・ ◇

「売電価格<買電価格」となっていく今後は、発電した電力は「売る」のではなく、「貯める」事が家庭にとっては賢い選択になってくると思われます。

現在電気を貯める（蓄電）方法は、蓄電池や電気自動車（EV）の導入が一般的な方法です。

蓄電池は蓄電量5KW程度が主流で、電気自動車（EV）は軽四クラスでも蓄電量10kWh程度のももあります。

どちらが良いかは、そのご家庭の予算やライフスタイルによると思いますが、電気自動車（EV）はただ電気を貯めておくだけではなく、生活手段として利用できます。ファースカーとして長い走行距離を必要とする場合は難しいのですが、奥様の普段のお買い物やお子様の送迎などのセカンドカーとしては、便利です。「ファースの家」でも採用している住宅も存在します。

蓄電池技術が進み、より高蓄電量で安価な蓄電池が販売されれば、調理や電灯だけでなく、暖冷房に必要な電力まで賄えるかもしれません。

ただ最も大事な事は『家そのものを断熱で高性能化』する事です。多額な投資をし、どんなに太陽光で発電して、その電気を貯めたとしても、それ以上にエネルギーを消費する家では意味がありません。

今後は「創エネ（太陽光発電）」、「省エネ（家の性能）」、「蓄エネ（蓄電）」をトータルで考える家づくりが必要になってきます。

（研究開発室 村上 一人）

幸太の知恵袋

缶ビールを急いで冷やす

ビールは、飲みたい時に冷やし忘れてたら最悪だね。女房には怒られるし、かといって氷を入れたんじゃ薄まってしまう。

そんなときは、まあ落ち着きなさいよ、缶ビールを大至急冷やすのに、いい方法があるんだから。

まずは、缶ビールに濡れぶきを巻くんだよ。それからそのまま冷凍庫に入れておくの。10分もすればビールが冷えて、おいしく飲めるようになるってわけ。

だけど、入れっぱなしは絶対だめだからね。フリーザーの中の缶ビールは、そのままにしておくくと破裂してしまうから危ないんだよ。

たった一晩で冷凍庫の中は泡だらけってことになって知らないよ。